

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	かぶしきがいしゃまんさくのかい		
	制作団体名	株式会社万作の会		
	代表者職・氏名	代表取締役 野村二郎		団体ウェブサイトURL
				https://www.mansaku.co.jp/
	制作団体所在地	〒 112-0014	最寄駅(バス停)	東京メトロ有楽町線江戸川橋駅
		東京都文京区関口2-2-7		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	まんさくのかい		
	公演団体名	万作の会		
	代表者職・氏名	代表者 野村万作		団体ウェブサイトURL
				https://www.mansaku.co.jp/
	公演団体所在地	〒 112-0014	最寄駅(バス停)	東京メトロ有楽町線江戸川橋駅
		東京都文京区関口2-2-7		
	制作団体 設立年月	平成4年3月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表取締役 野村二郎 取締役 野村武司・野村若葉子・三藤葉子	(1)団体構成員…狂言師、または修業中の者 (2)加入条件…野村万作が各分野で必要と認めた者 役員4名、狂言師17名、事務員3名	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	小山田智美 小俣美登里
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	黒澤理英
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		oymd@mansaku.co.jp		0359819777

制作団体の実績

制作団体沿革・主な受賞歴	1992年株式会社として設立。 人間国宝・文化功労者で日本芸術院会員の狂言師・野村万作と、その長男・野村萬斎を中心に、年10回程の主催公演を始め、劇場主催公演の企画制作など、国内外で公演を行い、狂言の普及に努める。  主催公演:「万作を観る会」(東京公演1992以前～、名古屋公演1998～) 「狂言ござる乃座」(東京1987～2024まで年2回・2025～年1回、名古屋1998～、京都2006～)  「野村狂言座」(東京1998～年4回) よこはま「万作・萬斎の会」(横浜2000～) 「狂言ざん座」(東京2006～) 「イデア狂言」(東京2025～) 「狂言このあたり乃会」(東京2018～2022)など
学校等における公演実績	団体発足以来、学校等での公演を積極的に実施。近年も当事業以外に年間40校程を対象に公演を行っている。  令和7年度実績・予定 ・世田谷区内小学校公演(狂言ワークショップ、狂言「附子」) 28回予定 ・練馬区内小学校公演(狂言ワークショップ、袴狂言「盆山」) 6回予定 ・埼玉県富士見市内小学校 狂言ワークショップ(解説・ワークショップと狂言1番)4回予定 ・日本青少年文化センター主催 足利市内小学校鑑賞会(解説、狂言「柿山伏」「附子」) ・開成中学校 狂言鑑賞会(解説、狂言「蝸牛」「六地藏」) ・大田区内小学校 狂言ワークショップ(解説・ワークショップと狂言1番)4回予定 ・練馬区立大泉学園中学校 狂言鑑賞会(ワークショップ、袴狂言「盆山」、狂言「附子」) ・東宝エージェンシー主催 都内学校鑑賞会(解説、狂言「梟山伏」「棒縛」／狂言「佐渡狐」「蝸牛」)3回予定
特別支援学校等における公演実績	平成25・27・29年 大阪府の国際障害者交流センター ビッグアイ主催「バリアフリー狂言会」に出演。解説と狂言2番をあらゆるハンディに対する鑑賞サポート付きで上演。 平成26年度本事業で、山梨県立ろう学校にてワークショップ・公演を実施。 令和元年度本事業で、栃木県立盲学校にてワークショップ・公演を実施。 令和4年度本事業で、山梨県立やまびこ支援学校にてワークショップ・公演を実施。 令和4年度3月、横浜能楽堂主催「バリアフリー能」に狂言「茸」で出演。 令和5年度本事業で、滋賀県立聾話学校にてワークショップ・公演を実施。 令和7年度本事業で、熊本県立盲学校(聾学校・はばたき支援学校同時開催)にてワークショップ・公演を実施予定。

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.kodomogeijutsu.go.jp/video/traditional/a09.html">https://www.kodomogeijutsu.go.jp/video/traditional/a09.html</a>	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

別添	なし
----	----

【公演団体名 万作の会 】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	-	小学生(中学年)	○	
		小学生(高学年)	○	中学生	○	
	企画名	日本の伝統芸能「狂言」を楽しもう ～体験と鑑賞～				
	企画のねらい	・ほとんどの児童・生徒は、実際の「狂言」に触れる機会がないので、まずは狂言を見て・体験して知ってもらいたい。 ・その上で、日本の伝統芸能である狂言の持つ、ことばや表現の豊かさ、想像力を働かせる楽しさを感じてもらいたい。 ・またワークショップで狂言の稽古(＝狂言師のことばや所作をまねる)を体験し、大きな声ではっきりとセリフを言い、大きく体を動かして所作をすることで、自ら体を使って表現することの本質的な魅力を体感し、集中力や注意力など、普段の学びにも活かせる力を培ってもらいたい。				
	演目概要・演目選択理由	【演目概要】 いずれも古典狂言。「盆山(ぼんさん)」では、ある男が知人の家に盆山(盆の上に風景を作った置物)を盗みに入るが家主に見つかりからかわれ、動物の物真似をする羽目になる。「附子(ぶす)」では、主人に留守番を言いつけられた太郎冠者と次郎冠者が、猛毒の附子が入っているという桶の中身を怖々探る。共演体験を行う「蝸牛(かぎゅう)」では、主人の命で長寿の薬になる蝸牛(かたつむり)を取りにきた太郎冠者が、山伏を蝸牛と思い込み、囃子言葉で浮かれながら主人の家に向かうことになる。 【演目選択理由】 鑑賞を通じて狂言や日本文化の特徴が感じられ、表現する楽しみを理解しやすい演目です。 「盆山」には様々な動物の物真似、バントマイム的な動きや見立て等、想像力を働かせて楽しむ、狂言の「型」による表現が多く登場します。「附子」は狂言の代表的な作品で、日常を舞台に人物の喜怒哀楽が豊かに表現される、親しみやすい演目です。「蝸牛」では謡と舞の掛け合いで、日本古来の間やリズムを楽しく体験することができます。				
	児童・生徒の参加または体験の形態	本公演の「蝸牛」では、児童・生徒はじめ参加者全員に太郎冠者役を受け持ってもらい、その囃子言葉と浮きの所作との掛け合いで山伏役の演者が舞うかたちで共演します(児童・生徒はその場で、山伏は能舞台上で謡い・所作をする)。 事前ワークショップでは全員で囃子言葉と浮きの所作を稽古し、本公演までの期間も、出来る範囲での復習と、本公演のみ参加する児童・生徒への指導をお願いしております。 本公演では最後の復習をしてから本番に臨みます。山伏以外の演者も舞台上に登場し、児童・生徒と共に囃して盛り上げます。先生方にもワークショップへ積極的に参加していただき、授業の盛り上げと、復習時の指導に御協力をお願いしております。				
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	50～200人程度		
			鑑賞人数目安	同上		
	本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	狂言「盆山」 狂言「附子」 共演体験・狂言「蝸牛」より囃子言葉の掛け合いの場面 ※古典狂言の作品のため、いずれも作者未詳  【プログラム構成】 1、解説 「狂言を楽しもう」(約20分) 日本の伝統芸能「狂言」について、その歴史や題材・内容の特徴、洗練された豊かな表現技法、舞台や装束、演目の見どころや楽しみ方を解説します。共演演目の復習も行います。 2、狂言「盆山」上演(約15分) (休憩10分) 3、狂言「附子」上演(約20分) 4、共演体験 狂言「蝸牛」より…囃子言葉の掛け合いの場面(約20分) 装束を着けた山伏役が登場し、最後の復習をしてから本番に臨みます。 5、締めめの挨拶 狂言師が舞台に出て締めめの挨拶をします。感想発表・質問があれば対応します。				
		公演時間	90	分		

出演者	万作の会所属狂言師のうち5～6名： ・石田幸雄、深田博治、高野和憲(以上3名は重要無形文化財総合指定者) ・野村太郎、月崎晴夫、岡聡史、中村修一、内藤連、飯田豪、石田淡朗(以上7名は能楽協会会員) ・福田成生						
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	監修・野村万作(のむらまんさく) 重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。文化功労者。日本芸術院会員。2023年、文化勲章を受章。 祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞。その他、観世寿夫記念法政大学能楽賞、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞等、多数の受賞歴を持つ。 ・石田幸雄(いしだゆきお) 東京都出身。高校在学中より野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。 76年『茸』で初舞台。01年、宝生流・田崎隆三師と共に「雙ノ会」を設立。大胆かつ緻密な演技で、すでに数多くの優れた舞台歴を持つ「万作の会」の重鎮。06年には「雙ノ会」で芸術祭大賞受賞。11年観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。 ・深田博治(ふかたひろはる) 大分県出身。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。重要無形文化財総合指定者。94年『魚説法』シテで初舞台。『奈須与市語』『三番叟』『釣狐』『花子』を既に披く。「万作の会」の演者の一人として国内外の公演に出演、実直な演技を見せている。06年に発足した万作一門の研鑽会「狂言ざん座」同人。2012年より出身地・大分県で「狂言やっとな会」を主宰。						
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者： 6 名 スタッフ： 1 名 合 計： 7 名			運搬		積載量： 4 t 車 長： 5 m 台 数： 1 台	
本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間		時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	12:00	12:00～13:30		13:30～15:00	10分	15:00～15:40	16時00分
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数 目安  ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月		7月		8月		9月
	0日		0日		0日		3日
	10月		11月		12月		1月
	3日		0日		0日		7日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		13日

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡



図1

(図1) **体育館フロア**に舞台を設置しての実施の様子。ステージ前に舞台空間を設置し、緞帳を下ろしてステージ上に楽屋を用意しています。楽屋の設置場所によってステージ位置を検討します。

参加人数が100名くらいまでであれば、より間近で演技を体感できるこちらの形がおすすめです。

◆舞台設置に必要な面積：  
フロア上、幅約15m以上、奥行約10m程度

※本舞台左側の「橋掛かり」前にも客席を作ることが出来ます。



図2

(図2) **体育館ステージ上**に舞台を設置しての実施の様子。

※鏡板（松羽目）のサイズは図1と同じです。

本舞台（鏡板の前）から左側に橋掛かりが伸び、その先の舞台袖中に楽屋を用意します。橋掛かりの前には3本の松が置いてあります（舞台セットの一部）。

◆舞台設置に必要な面積：  
ステージ幅8m以上、奥行5m以上



図3

(図3) 能舞台での狂言「附子」上演の様子

学校鑑賞会でも、狂言を上演する際、狂言師は写真の登場人物たちが着ているような本物の「装束」（舞台衣装）を身に付けます。

公演準備として、楽屋には着付けのできる土足禁スペースを確保していただくこと、舞台の床面は乾拭きでできるだけ綺麗に掃除していただくことをお願いしております。

著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否		該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名		許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。



別添

なし

【公演団体名

万作の会

】

## ワークショップのねらい

・本公演と内容的につながりを持たせ、誇張をとまなリアルで大きな身体表現によって観る人の想像力に訴え、簡素な舞台上にさまざまな事象を描いて楽しむ、狂言への理解を事前に体験的に深めて頂くことで、本公演への興味と教育効果をいっそう高めます。

・挨拶・正座など、日本の伝統的な礼儀作法への理解を深めます。

・狂言の「型」による表現と稽古を通して、基本の大切さを感じて頂きます。

・大きな声ではっきりとセリフを言い、大きく体を動かして所作をすることで、自ら体を使って表現することの本質的な魅力を体感して頂ければと存じます。

## 児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

20名～100名程度が最も効果的ですが、200名くらいまでは対応可能です。

## ワークショップの内容

## ワークショップ実施形態及び内容

実施時間:標準 90分

ワークショップでは、日本の伝統芸能・狂言についての基本的な知識と、その表現技術について学び、鑑賞会(本公演)でプロの狂言師と共演する狂言「蝸牛」の囃子言葉と所作(動き)を身につけることを目標とします。

始めに解説と実演で狂言に触れ、狂言師の表現技術を目の前で感じて頂きます。その後、伝統的な稽古方法にのっとり狂言の基礎を体験し、実践的な理解を深めます。

児童生徒・先生方は、体操服やジャージ等運動しやすい服装(スカートは不可)、靴下を履いた状態(上履きは脱ぐ)での参加をお願いします。(以下は順不同で行います。また、状況や時間をみて休憩をとります)

①「狂言」の紹介…その歴史や特徴について解説します。

② 実演(袴狂言「蝸牛」など)…お手本も兼ね、代表的な狂言の一部分を実演し、狂言師の表現技術を目の前で感じて頂きます。

③ あいさつ…体験＝稽古を始める際に正座でお辞儀をし、学びの姿勢のオンオフを切替えます。

④ 狂言のセリフ・所作(動き)の体験…狂言の特徴的なセリフ、身体表現の基本となる構え・すり足から、実際の狂言に登場する代表的な所作など、狂言ならではの「型」による表現技法を体験し、学びます。  
※各体験は基本的には全員で行いますが、時にはクラスごとに人数を分けたり、挙手や指名による代表者に前に出てもらったりと、児童・生徒に集中をうながしながら進めます。

⑤ 狂言「蝸牛」の共演場面の稽古…囃子言葉の謡と、謡に合せた「浮き」の型を稽古します。狂言に伝わる日本の伝統的な言葉・リズム、息を合わせての掛け合い、身体表現による発散の楽しさをまとめて体感することができます。

⑥ 締め括り…時間があれば狂言の「笑い」「泣き」といった喜怒哀楽の型の体験し、最後に正座でお辞儀をして締め括ります。

⑦さらに時間とご希望があれば、質疑応答を行います。

## その他ワークショップに関する特記事項等

図4



(図4)三角コーンや平均台で能舞台のかたちを作り、児童・生徒にはその都度見やすく、動きやすいように位置を変えて頂きながら実施します。

※参考ページ：万作の会ホームページ  
(<https://www.mansaku.co.jp>)

★YouTubeチャンネル「野村萬斎 @狂言ござる乃座」→  
[https://www.youtube.com/channel/UCfcZDtNB\\_qKhJ8c0G2qnCQA](https://www.youtube.com/channel/UCfcZDtNB_qKhJ8c0G2qnCQA)

★YouTubeチャンネル「笑う門には福来たる！野村萬斎の狂言エクササイズ」→  
<https://www.youtube.com/watch?v=B6TNeqmfEuk>

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 万作の会 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。  
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。  
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。  
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。  
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。  
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。  
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。  
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。									
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量				A以上		
舞台設置面積		間口	8 m		奥行	5 m				
		高さ	3 m							
舞台設置場所		フロア対応	可		学校のステージでの対応			可		
搬入間口の広さ		幅	2 m		高さ	2.5 m				
遮光の要否		遮光要件なし		緞帳の要否			有無のみ確認したい			
ピアノの使用について		使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			なし			
				ピアノを使用しない場合の移動の要否			要			
搬入車両(トラック等)の横づけ		必須		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			10 m以内			
搬入車両の種類		大型トラック		台数	1 台					
搬入車両の大きさ		車幅	2.5 m		車長	8.73 m				
備考		長距離移動となる場合、本公演使用の大道具類は4tトラックでの運搬となるため、会場(体育館)までの動線確保が必要です。敷地内への4tトラック進入不可の場合、校内の移動について相談が必要です。								

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	4tトラック進入について要相談の場合、経路や間口の写真の提出をお願いする場合がございます。	

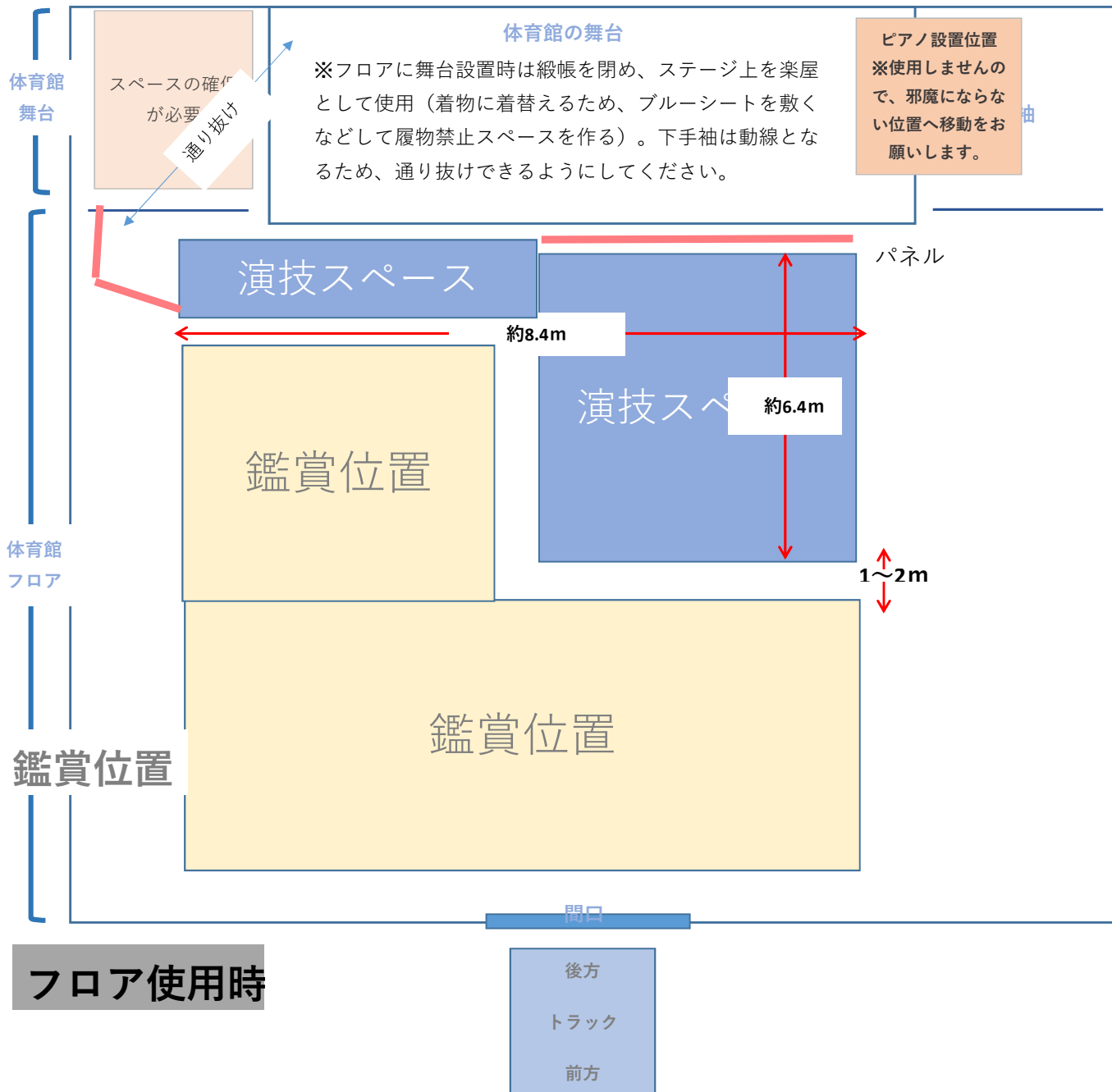
時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒			ワークショップ時に本公演で行う共演体験「囃子言葉」の指導をしますので、本公演までの間に忘れないよう復習、またはワークショップ不参加で本公演のみ参加する学年への伝達をお願いしています。	ホームルームなどで復習の時間を設けたり、体育の時間で振り返りをするなど、本公演までに忘れないようにしていただけると有難く存じます。
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

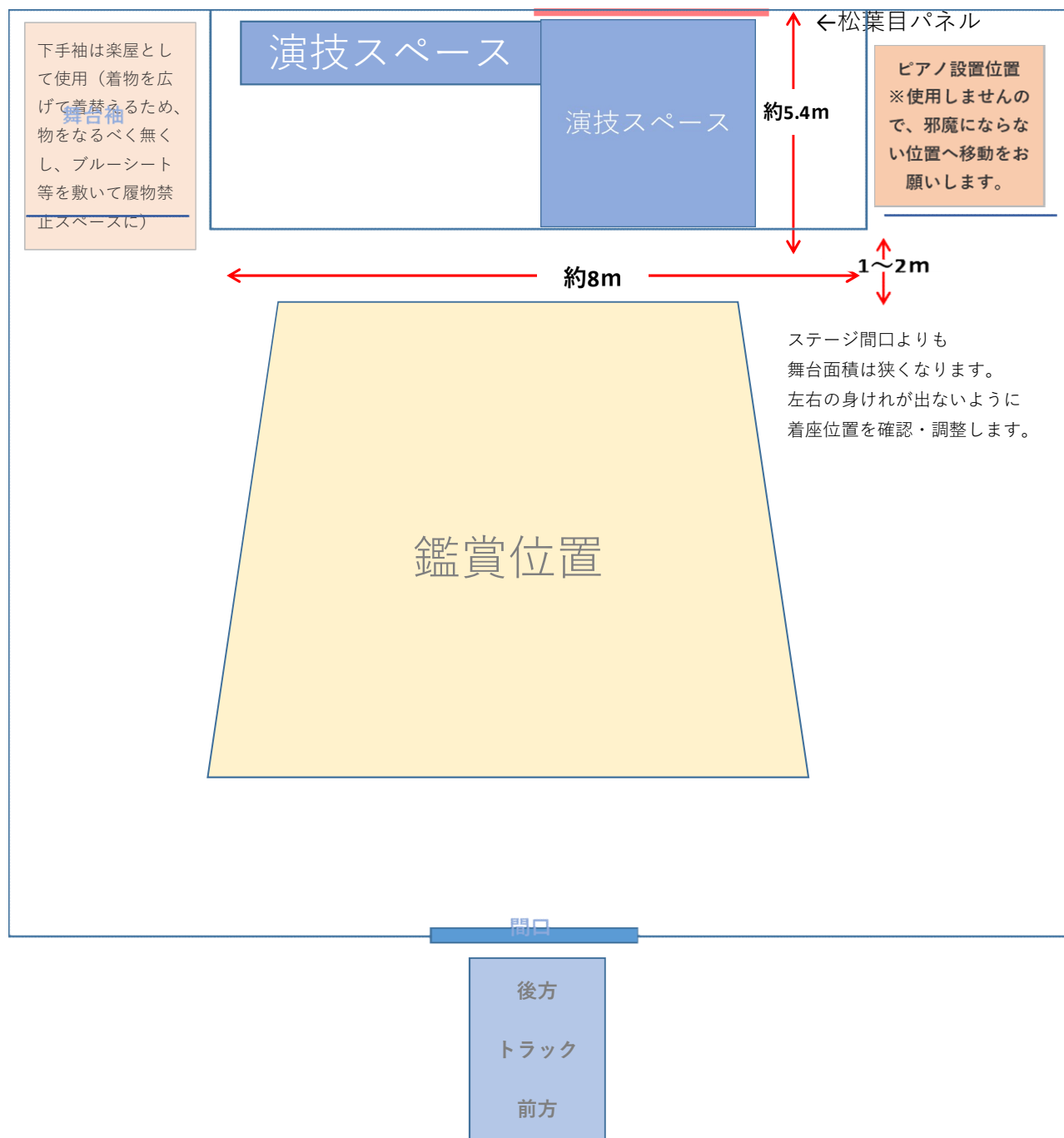


(任意) 会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



## 舞台使用時



別添

なし

【公演団体名

万作の会

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

・まずは日本の伝統芸能である「狂言」に触れる機会としていただくこと。  
言葉として授業で習うだけでなく、実際に「狂言」という芸能そのものを見て・体験する機会にしていきたい。

・その上で、「狂言」ひいては日本の伝統芸能が持つ【ことばや表現の豊かさ】【日本語が持つ独特のリズム】【見立ての文化】を五感で味わってほしい。

・また、実際に狂言のセリフや所作(動き)を児童・生徒にも体験していただくことで、自ら体を使って表現することの楽しさ・魅力を感じて欲しい。

・狂言師が児童・生徒へセリフや所作を教える際の基本は、「狂言師の真似をすること」。声の大きさや抑揚、動きのリズムなど、真似る対象をよく観察・理解する必要があるため、「よく聞く・よく見る」という学習の基本に立ち返り、普段の学習にも役立ててほしい。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

・「狂言」がどういうものか、という説明では、歴史的なことも含めつつ、「狂言」で扱われる内容はすべて現代の我々にも通じる身近で共感できる内容であることを説明し、難しい・よく分からないものという先入観を取り払う。

・大きな声を出すこと、思ったこと(意見)を口に出すことへの抵抗が無くなるよう、なるべく時間をかけて、児童・生徒の意見を聞き、反応を確認する。

・児童・生徒だけでなく、先生方にもなるべくワークショップには当事者として参加していただく。一番身近な大人である教師が、自分たちと同じように狂言のセリフや所作に挑戦している(あるいは苦戦している)様子は児童・生徒にとってやる気や、積極的な参加につながる。

・本公演では、普段の能楽堂・能舞台で使用しているものと同じ装束(衣装)・道具を使用。本物に触れることで、体験の密度が増すようにする。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

## 【学校との連絡調整について】

・電話、メールいずれの連絡手段も使用し、日程や時間等にまちがいが無いよう確認を行います。

・特別な準備は必要ありませんが、ワークショップ時には児童・生徒は上履きを履かずには靴下や足袋などで参加する、控室として利用できる教室の準備(履物禁止スペースを設ける)など、ご協力いただく必要があるものへの説明(なぜそれが必要なのか)は丁寧にします。また、疑問点や不明点など、相談にはいつでも応じます。

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

・基本的な実施内容の変更はありませんが、小学生中学年、小学生高学年、中学生それぞれの学年や反応に応じた解説をします。

・ワークショップは基本的に狂言師3名(＋事務員)で何うため、参加人数が多くなれば、体験してもらったセリフや所作の数が少なくなる可能性があります(ひとつひとつをきちんと理解して体験してもらいたいめ)。

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

・学年や学校の使用教材によっては、ワークショップや本公演の後の授業で「狂言」を扱う単元がある場合がありますので、本公演等での体験を活かしていただきたいと思います。

・図書室等にある「能・狂言」関連の図書を学校側で積極的に特集・発信していただくなどすると、日本の伝統文化として意外と身近なものであることに気づいていただけます。